

●なみえまち

浪江町

浪江町の被害状況



最大震度 6強

浸水面積 6km²

最大浸水高 15.5m



全壊 772棟

半壊 2,384棟

一部損壊 154棟



死者 594人

行方不明者 31人

負傷者 不明

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.11下段に記載の資料に準拠
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

津波に襲われた福島県内唯一の震災遺構

●しんさいいこうなみえちょうりつうけどしょうがっこう

震災遺構浪江町立請戸小学校

3月11日午後4時近く、浪江町請戸漁港を巨大津波が襲いました。観測機器が破損したため津波の高さは計測不能ですが、請戸小学校の体育館の壁などには、15mを超える高さに津波の痕跡が残されています。請戸小学校は、震災当時の姿をそのまま残しています。1階は津波の直撃を受けて破壊されましたが、2階はベランダの壁に遮られて浸水を免れることができました。

発災後、津波の襲来を予想して、請戸小学校の教師や子どもたちは避難を始めました。先生が先導し、上級生は下級生の手を引いて励ましながら、大平山へと向かいました。指定されていた避難場所ではなく、機転を利かせて大平山に逃れたことで、先生も子どもたちも全員が助かりました。しかしその後、原発事故による避難を余儀なくされ、今も約9割の町民が県内外で生活を送っています。

*2016年1月現在



2階にある管理棟展示室。賑やかに学び、遊んでいた子どもたちの姿などがパネルで紹介されている。震災当時の避難の様子を伝えるパネルもあり、津波の際の行動や判断の大切さを知ることができる



請戸小学校は海岸から300mほどの距離で、15mを超える津波の直撃を受けることになった。2階のベランダの壁には、津波到達点の表示が掲げられている。素早い避難で先生と子どもたちの命が救われた



1階の見学通路。各教室は津波の直撃を受けて、壁も天井も、剥がされるように流された。傷が付き、傾いたまま、かろうじて残った備品なども震災当時のまま。津波の破壊力の凄まじさに驚かされる

震災遺構

車椅子OK

施設DATA

●しんさいいこうなみえちょうりつうけどしょうがっこう

震災遺構浪江町立請戸小学校

☎ 0240-23-7041 MAP P116F2

📍 浪江町請戸持平56

🚗 常磐自動車道浪江ICから車で20分

🕒 9時30分～16時30分(最終入館は16時)

🔥 火曜(祝日の場合は翌日)

🎫 300円、高校生200円、小・中学生100円、未就学児無料

🅐 あり(大型バス:あり)

🌐 <https://namie-ukedo.com>



考えてみよう

Q1 請戸小学校の先生と子どもたちは、全員が山に避難して助かることができました。どのぐらいの時間で避難できたと思いますか？

Q2 指定されていた避難場所ではなく、大平山に避難した先生と子どもたち。なぜ本来の避難場所ではない山に避難したのでしょうか？

A1 約1時間で全員が山頂に到着。パネルで避難時の様子を詳細に伝えている。

A2 指定避難場所へ続く道路は避難する車で混雑しており、また生徒数も多かったため、大平山への避難が安全と考えた。